

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	びーすの児童デイ ばんだ		
○保護者評価実施期間	2026 年 1 月 20 日		2026 年 2 月 20 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2026 年 3 月 24 日		2026 年 4 月 6 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○訪問先施設評価実施期間	2026 年 1 月 20 日		2026 年 2 月 20 日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	16	(回答数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 6月 22日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	自己評価の結果は高く、訪問支援員自身の専門性に基づいた支援を提供できていることが分かった。	毎月の定例会議で、ケースの検討、訪問先施設についての情報共有を行っている。 保育所等訪問支援事業以外の事業も兼務していることで、広い視野から支援を提供でき、訪問支援員としてのスキルも高められるよう工夫している。	今後も、当該児童のニーズを優先しつつ、保護者のニーズ、訪問先施設のニーズも見極め、適切な支援を提供したい。
2	訪問先施設からの事業所評価も高く、ご意見も肯定的なものが多かった。	日程調整の段階から、個々の訪問先施設の担当者の事情に合わせて放課後の時間帯に電話をする、メールで連絡するなど工夫している。 年度初めには、訪問支援を開始する前に挨拶に伺い、支援の方向性を共有している。	今後も、訪問先施設の担当者の事情に合わせて、連絡調整をしていく。 訪問先施設のニーズを見極めた助言ができるようにそれぞれの訪問支援員が自己研鑽に努める。
3	保育所等訪問支援計画については、保護者評価で高評価をいただいた。自己評価でも訪問先の意向を盛り込み、ガイドラインの内容も踏まえ、計画に沿った支援が行われているという高評価だった。	保育所等訪問支援計画では、目標が「達成できた」「一部できた」「できなかった（ため計画変更）」など評価を分かりやすく工夫している。 評価についても、支援内容について、どうだったかをわかりやすく記載している。	今後も、当該児童のニーズに沿った目標、保護者のニーズに沿った目標を立てて、その達成に向けて支援していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者への説明等の項目で、マイナスの評価が複数あった。	「（保護者への）共感的な支援」「意思の疎通や情報伝達の配慮」「相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応」「（訪問後に）保護者に対して適切に共有」についてマイナスの評価があったことは重く受け止めている。保護者の話を傾聴する、共感的に関わるなどに問題があったと思われる。	保護者に訪問先施設訪問後の報告をする、電話等で連絡をする、面談をするなどの際に、自分の姿勢に問題がないかセルフチェックシート等を用いて自己評価する。 保護者との対応で困ったことがあったなどの時に相談しやすいチーム作りにそれぞれの訪問員が取り組む。
2	支援開始前・支援終了後に職員間で打ち合わせをすることは、他事業との兼務、時間の制約もあり、なかなか難しい現状がある。	訪問支援員全員が専任ではなく、他事業との兼務で、訪問前の打ち合わせはかなり難しい。	毎月1回の定例会議で、多職種でケース検討することで課題を出し合い、共有し支援にあたることはできる。 当該児童について、複数の事業で関わっているケースはあり、チーム支援については今後、工夫次第で可能。
3	令和7年度の訪問先施設のうち、アンケートにご協力いただけなかった施設も複数あった。その評価は、回答いただいた施設ほどは評価が高くないことが想像できる。	家庭と連携することで、訪問先施設に家庭での様子、保護者の困りごとを情報提供する。	訪問先施設から評価いただいていることに加えて、当該児童のアセスメントを訪問の都度行い、訪問先施設で役に立つ訪問支援員になっていけるよう研鑽する。